

重点施策 12 文化振興事業の充実

【施策方針】

優れた文化芸術事業や郷土の先駆者を顕彰する企画展、歴史探検学習等を実施し、市民が文化活動・郷土史学習に参加し体験できる場を提供することにより、郷土愛を育むとともに、文化活動の支援と地域文化を支える人材の育成に主眼を置き、幅広い分野での芸術、文化活動の市民への普及、啓発を実施する。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

■文化芸術事業の振興

- ① 八幡浜市美術展の開催
- ② 県展八幡浜移動展の開催
- ③ 八幡浜市美術館特別展の開催

■文化会館事業

- ① 文化会館管理・運営
- ② 自主文化事業の開催
- ③ 企画プロデュース事業への助成（申請なし）
- ④ カルチャー教室・ロビー展の開催

■市民文化活動センター事業

- ① 市民文化活動センター管理・運営
- ② 自主文化事業の開催
- ③ 企画プロデュース事業への助成

(2) 施策・事業の実施状況

■文化・芸術事業の振興

① 八幡浜市美術展の開催

市民より作品を募集し、絵画（洋画、日本画）、書道、写真、工芸等の各分野から 181 点の応募があった。特に優秀な作品については市展優賞、市長賞、議長賞、教育長賞、文化協会長賞、推奨、高校生奨励賞等の表彰を行い、作品制作の励みとなるようにした。

観覧料は無料。観覧者 1,101 人（八幡浜市美術展委託料）398 千円

② 県展八幡浜移動展の開催

県展出品者の中から、八幡浜市出身者の作品を中心にして、八幡浜市美術展と同じく、絵画（洋画、日本画）、書道、写真等の作品 105 点を展示した。

観覧料は無料。観覧者 604 人（県展八幡浜移動展委託料）250 千円

③-1 令和3・4年度市町村立美術館活性化事業 第22回共同巡回展

土門拳記念館コレクション展 土門 拳 ー肉眼を超えたレンズーの開催

八幡浜市美術館の令和4年度特別展として、山形県酒田市にある土門拳記念館より作品を借用し、一般財団法人地域創造の助成で全国4会場ー豊科近代美術館（長野県）、直方市美術館（福岡県）、安来市加納美術館（島根県）、八幡浜市美術館ーを巡る展覧会を開催した。会期中にはワークショップや講演会を開催し、市民のみなさんに広く芸術に親しんでいただける場を設けた。

会期令和4年10月29日（土）～12月11日（日）38日間

観覧者2,333人（有料1,935人、無料398人〔※うち高校生以下186名〕）

（展示輸送委託料ほか）6,102千円

③-2 郷土の先駆者顕彰事業～生誕110年記念～「道上 伯」の開催

八幡浜市向灘出身で、生涯無敗の柔道家、国際的な柔道指導者である道上伯氏の生誕110年を記念し、顕彰事業として企画展「孤高の柔道家・道上伯」、記念講演会「最後の武士 道上伯」を開催した。ご子息からの寄贈資料や市内に残る足跡を紹介する企画展を通じ、ふるさと八幡浜への誇りと郷土愛を養う機会になった。

会期令和4年7月24日（日）～8月21日（日）25日間

企画展観覧者438人、講演会聴講者108人

（展示輸送委託料ほか）1,121千円

③-3 八幡浜市美術館共催展「日本画家 松本徳園展～画業80年のあゆみ」の開催

八幡浜市美術館では郷土を代表する作家を紹介する場として、八幡浜市美術館共催展を開催、第1回として「日本画家 松本徳園展～画業80年のあゆみ」を開催した。八幡浜市のみならず愛媛県の日本画の普及や後進の指導に尽力された氏の79点の作品を展示し、たくさんの市民のみなさんに来場いただき、郷土の画家の顕彰につなげた。

会期令和5年2月25日（土）～3月19日（日）20日間

観覧者1,248人

■文化会館事業

① 文化会館管理・運営

市民の日常の学習や文化活動の場として自己を高め、芸術文化の向上と地域文化を育むとともに、生涯学習の拠点として貸館業務、カルチャー教室、ロビー展などを実施した。

② 自主文化事業の開催

「坂本冬美コンサート2022」、「岸谷香 KAORI PARADISE2022」、「愛媛オールスターズ JAZZ フェスティバル in 八幡浜」、「及川浩治ピアノリサイタル」の4事業を計画し、全て計画通り実施した。

③ 企画プロデュース事業への助成

市民が企画・立案し自主運営する文化事業（映画会・講演会・コンサート等）の募集をしたが、申請がなかった。

④ カルチャー教室・ロビー展の開催

カルチャー教室については、地域文化の創造に貢献できる人材を育成するために公民館の学習講座との調整を図り「夢づくり・夢学び」をキャッチフレーズに、俳句・絵画・料理の3講座を計画した。料理教室は、受講希望者が少数であったため中止とした。俳句教室と絵画教室はそれぞれ計画どおり年間10回開講した。

また、ロビーを作品発表の場として開放し、「ミニ美術館」として活用した。市民の方々の優れた作品を展示し鑑賞していただいている。

■市民文化活動センター事業

① 市民文化活動センター管理・運営

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場者数を制限する期間もあったが、コロナ感染対策を講じながら貸館・自主事業を実施した。

施設の運営にあたっては、会議室利用者からの要望が多かった大型ディスプレイやオンライン配信・会議用機器を充実させ、より利用しやすい環境を整え、市民の自主的な文化・芸術活動並びにボランティア活動等の支援につなげた。

② 自主文化事業の開催

定期的に開催している映画上映会では、市民のリクエスト作品を中心に上映を行い、さらに愛媛国際映画祭、優秀映画鑑賞推進事業(35ミリフィルム上映)に参加することで、新旧、邦画・洋画、様々なジャンルの作品を上映することができた。映画上映会の認知度も上がってきており、リピーターが増加してきているほか、南予地域に映画館がない現在、近隣自治体からも来場があり、市内外に映像文化に親しむ機会を提供するとともに、交流人口の獲得にも寄与している。

また、市民にとって身近な存在である当市にゆかりのあるアーティストや新鋭アーティストを迎えた公演（宮本益光バリトンリサイタル「シンガーソングライター～加藤昌則歌曲集～」/ジェイコブコーラーピアノソロコンサート/第2回てやてや寄席 柳家花緑・柳家勸之助親子会/インペトゥス・サクソフォンアンサンブル特別公演 in 八幡浜/いざや！にっぽんの踊りと響き/Kaco ニューイヤーライブ）を開催し、優れた芸術文化を「鑑賞」する機会を提供するとともに、ジェイコブコーラーピアノソロコンサート、インペトゥス・サクソフォンアンサンブル特別公演 in 八幡浜では、市内の小・中学生、高校生がプロの演奏家から直接指導を受け共演する機会を提供し、芸術文化の未来の担い手、鑑賞者となる次世代の人材育成につなげた。

③ 企画プロデュース事業への助成

文化会館で実施している上記事業の対象施設に市民文化活動センターを加え、市民が企画・立案し自主運営する文化事業（映画会・講演会・コンサート等）の募集を行い、『忠

八ホール』命名記念特別ミュージカル公演実行委員会より申請があり、ミュージカル『二宮忠八物語』（同時上演 ミュージカル『松村正恒物語』）に助成を行った。

【事務事業点検評価委員意見】

○ 八幡浜市美術館が、「市民のアートへの入口」として定着し、芸術・文化活動の面で大きな役割を果たしている。八幡浜市美術展では、市民より作品を募集し、絵画、書道、写真、工芸等の分野から 181 点もの参加があった。どの作品も制作者の思いが伝わってくるレベルの高い作品ばかりであった。この美術展では、「高校生奨励賞」を設けており、若い才能を伸ばす上で、大変意義がある。観覧者が 1,101 名もあり、市美術展が、市民に親しまれていることが分かる。

県展移動展においても、八幡浜市出身者の作品を中心に 105 点が展示されており、市民が芸術に触れることのできる環境があることは、大切なことだと思う。

令和 3・4 年度市町村立美術館活性化事業「第 22 回共同巡回展 土門拳記念館コレクション展」は観覧者が 2,333 名、郷土の先駆者顕彰事業「～生誕 110 年記念～道上伯」は、観覧者が 438 名、講演会聴講者 108 名、八幡浜市美術館共催展「日本画家 松本徳園展～画業 80 年のあゆみ」は、観覧者 1,248 名と、それぞれに多くの方が観覧に来ていただいた。

道上伯は、偉業を成し遂げた人であるが、地元であまり知られていないのが残念である。今回の企画で、知名度が上がったのではないかと思う。

○ 文化会館事業では、「坂本冬美コンサート 2022」、「岸谷香 KAORI PARADISE2022」、「愛媛オールスターズ JAZZ フェスティバル in 八幡浜」、「及川浩治ピアノリサイタル」を実施した。中央で活躍されている方々を招き、幅広いジャンルのコンサートが実施できたことは、市民にとって大きな喜びであると思う。

自主文化事業の一部と企画プロデュース事業への助成については、新型コロナウイルスの影響を受けている。来年度は、申請があることを願っている。

カルチャー教室・ロビー展は、感染防止に気を付けながら、年間通して活動できたことは、素晴らしいと思う。作品を「ミニ美術館」として公開し、好評を得ているが、市民に対しての広報活動に、さらに力を入れると一層盛り上がると思われる。

○ 市民文化活動センター事業については、利用しやすい環境を整え、市民の文化・芸術活動にやる気と生きがいをもたらし、市民全体に活気と明るい展望を与える場となっている。

大型ディスプレイやオンライン配信・会議用機能を充実させ、より利用しやすい環境を整えたことは、活動を推進する大きな力になると思う。

映画上映会では、南予地区に映画館がないため、近隣自治体からも来場があり、リピーターが増えている。また、当市にゆかりのあるアーティストを迎えた公演も好評で、「ジェイコブコーラーピアノソロコンサート」「インペトゥス・サクソフォンアンサンブル特別講演 in 八幡浜」では、中学生がプロの演奏家から直接指導を受けた。次世代の人材育成に繋がる意義のある取組である。

- 市民が企画・立案し自主運営する事業については、「忠八ホール」命名記念特別ミュージカル実行委員会より申請があった。ミュージカル「二宮忠八物語」「松村正恒物語」に、助成を行ったことは、ミュージカルを一層充実したものにするために必要な支援である。

【自己評価】

- 八幡浜市美術館は、美術館として高い機能を備えながらも、市民のみなさまが気軽に利用しやすいつくりになっている。「第22回共同巡回展 土門拳記念館コレクション展」では、激動の昭和を独特のカメラアイで切り撮り、日本の写真界に大きな足跡を残した写真家・土門拳を紹介し、多くの方に来場いただいた。郷土の先駆者顕彰事業「～生誕110年記念～道上伯」では地元の偉人を紹介し、ふるさと八幡浜への誇りと郷土愛を養う機会になった。これからも様々な芸術作品の鑑賞の場として、また、創作活動の発表の場として活用を図り、広く市民のみなさんに美術・芸術に親しんでいただける場を設け、よりたくさんの方に来場いただけるよう広報を行っていききたい。
- 文化会館自主事業に関して、新型コロナウイルス感染拡大が続く中、使用制限や感染防止策を講じながら全公演を開催することができ、たくさんの方に来場いただけた。今後も市民の方に喜んで頂ける事業を企画したい。
- カルチャー教室は、地域文化の創造に貢献できる人材を育成するために「夢づくり・夢学び」をキャッチフレーズに取り組んでいるが、受講希望者少数の1講座が中止となった。今後は講座内容の見直しや周知の方法を再検討したい。
- アフターコロナにおいて、市民文化活動センターの貸館需要が高まる中、様々な文化・芸術・ボランティア活動の拠点の場として、より利用しやすい施設になるよう、引き続き、環境整備および情報発信に努めたい。また、次世代の人材育成に繋がる企画も交えながら、施設特性を活かしたイベントを開催していききたい。